

## 2. 人材を育てる 科学コミュニケーターの養成

科学コミュニケーターを社会へ輩出するとともに、外部人材向けの科学コミュニケーション研修を実施しています。

### ■科学コミュニケーターの輩出

未来館の科学コミュニケーターは最長5年の任期制職員として採用され、展示フロアでの解説やイベント、展示の企画などの科学コミュニケーション活動を実践しています。任期終了後は科学コミュニケーションの経験をもつ人材として、研究機関や大学、科学館・博物館、企業、教育機関などで活動します。2013年度は16名の科学コミュニケーターを輩出しました。

2013年度の輩出先

| 輩出先の業種 | 研究機関・大学など | 科学館・博物館など | 企業など | 教育機関 | その他 | 計   |
|--------|-----------|-----------|------|------|-----|-----|
| 人数     | 4名        | 1名        | 3名   | 3名   | 5名  | 16名 |

### ■科学コミュニケーション研修の実施

科学コミュニケーションのノウハウを必要とする外部の人材を対象に、実践的な研修を行って、科学技術と社会をつなぐ人材である科学コミュニケーターを養成しています。

#### ▶非専門家に伝える科学コミュニケーション(基礎トレーニング)

科学コミュニケーション活動が必要とされている歴史、背景を理解するとともに、科学コミュニケーションの基本的なスキルを習得する研修を行いました。

開催日：2013年6月16日(日)、9月8日(日)、12月1日(日)、2014年3月16日(日)

会場：7階 会議室2

対象：大学・研究機関・企業などの研究者や技術者、理数系教員、理数系大学院生

監修：戸田山和久(名古屋大学情報科学研究科 教授)、齋藤芳子(名古屋大学高等教育研究センター 助教)

講師：未来館 科学コミュニケーター

参加者：計72人



非専門家に伝える科学コミュニケーション(基礎トレーニング)

#### ▶大学・研究機関向け科学コミュニケーション研修

大学・研究機関に所属する研究員を対象に、研究内容や成果を分かりやすく伝える科学コミュニケーション能力の向上を目的として、各機関で研修を行いました。

開催日：2013年5月17日(金)、5月24日(金)、7月9日(火)、7月11日(木)、7月12日(金)

会場：7階 会議室2

対象：徳島大学、神奈川大学、信州大学、気象大学校

講師：未来館 科学コミュニケーター

参加者：計160人



大学・研究機関向け科学コミュニケーション研修

#### ▶教員向け科学コミュニケーション研修

科学コミュニケーションの基礎的な理解のほか、理科の授業や校外学習などで使える実践的な科学コミュニケーションを習得する研修を行いました。

##### ・埼玉県高等学校初任者研修

開催日：2013年10月9日(水)

会場：展示フロアなど

対象：理科教諭(高等学校)1年目の初任者

講師：未来館 科学コミュニケーター

参加者：57人

##### ・教員免許状更新講習

開催日：2013年8月25日(日)、11月17日(日)

会場：7階 会議室

対象：小中高校の理科教員

講師：未来館 科学コミュニケーター

参加者：33人

#### ▶大学・大学院生向け教育プログラム「実践型科学コミュニケーション・トレーニング」

大学生と大学院生を対象に、社会性やコミュニケーション能力の向上、科学コミュニケーションの裾野の拡大を目的として、未来館での演習を交えた授業を行いました。

期間：2013年6月8日(土)～11月21日(木)

会場：日本科学未来館、芝浦工業大学キャンパス

対象：芝浦工業大学大学院、筑波大学大学院、東京工業大学大学院

講師：未来館 科学コミュニケーター

参加者：計54人

#### ▶長期派遣教員の受け入れ

現職教員が科学コミュニケーターとして未来館の活動に携わり、科学コミュニケーション活動のノウハウやスキルを学び、学校教育現場へ還元することを目的として、毎年1名の長期派遣教員を受け入れていきます。展示解説、実験教室の講師、イベントの企画・運営、記事執筆などの業務を通じ、研修を行いました。

期間：2013年4月1日(月)～2014年3月31日(月)

派遣元：埼玉県立松山高等学校(担当教科：数学)

(敬称略)

## 2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2013年度) ①

未来館での科学コミュニケーション活動を通して、科学技術と社会をつなぐ役割を果たしています。



**天野春樹**

磁性研究装置の研究開発をテーマに理学修士を取得。専攻とあわせて取り組んだ科学コミュニケーション活動のなかで、人の考えを引き出し、気付きを共有することの面白さに衝撃が走り現職に。イベントでは、研究者の素顔を引き出すための場作りに挑戦。挑戦はまだ続く。



**安曾潤子**

小さいころに図鑑で見た「変形形の生きもの」が不思議で、ハンマー片手に「化石」を探る「古生物学」の道に入ってしまった。自然史博物館で学芸員として7年間勤務し、2012年4月より未来館へ。見えない未来を考える時、地球の長い歴史がヒントになれば幸いです。



**石川菜央**

専門は人文地理学。学部3年生から7年間、ひたすら日本の闘牛を研究し続けて博士（環境学）を取得。大学の博物館における勤務、フィリピン滞在を得て未来館へ。国内外におけるフィールドワークの経験を科学コミュニケーションに生かしたい。ニックネームはボリス。



**岩崎 茜**

マスコミ勤務の後、研究職を目指して大学院に進学。専門は環境哲学・倫理学（社会学博士）。自然保護において科学的知識と生活知の融合が重要であると考え、その際、専門家と一般の人々との橋渡しをする科学コミュニケーターの役割に注目している。「すべての学問の土台は哲学である」をモットーに、社会や自然に関するあれこれを思索することから科学にアプローチしていきたい。



**榎戸三智子**

子どものころ、空を眺めては宇宙のナゾに思いを馳せる。大学時代に出会った量子の世界に心ひかれ、素粒子物理学を研究（理学修士）。たくさんの人、特に子どもが科学をもっと楽しむ日本にしたい！



**大崎章弘**

機械工学専攻。博士後期過程退学後、大学助手を経て2009年10月より現職。前職では空中描画による表現活動の探求、体験型装置の研究開発などを行ない、現在は自身をインタフェースに来館者の気付きや表現を引き出す対話や場づくりを実践中。専門はヒューマンインタフェース、空中描画。



**大淵希郷**

生まれて初めてしゃべった言葉は「アリ」。大人になっても、この世にいるんな生きものがあることが不思議で、トカゲ、コイ、ミドリムシなどの進化について研究。その後、動物園で飼育展示係として働く。そこでヒトとも動物とも「対話する」ことの大切さ、難しさ、楽しさを感じ、未来館へ。夢はいつか今までにない動物園をつくること。趣味は生きもの散策、アキバ散策。特技はトカゲ釣り。



**落合裕美**

専門は社会学のコミュニケーション論（修士課程修了）。身体行動からみるコミュニケーションの観点から、ファシリテーションを研究。「コミュニケーションを科学する」というテーマのもと、科学と「社会現象や日常生活」の接点を意識した科学コミュニケーション活動をめざす。最近の関心は、「表情」と「睡眠」について日本の文化的な背景から考えること。



**格内麻也子**

楽しい気持ちが原動力！大学ではメディアアートを専攻、大学院ではインタラクティブデザインの研究と制作で修士号（デザイン学）を取得。卒業後、アーケードゲームの企画開発職を経て、未来館へ。科学を楽しむ気持ちで学んでもらえるようにサプライズをしかけます。



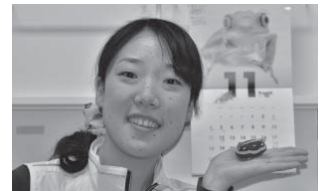
**國次 純**

工学部（化学科）出身、専攻は環境の「未来館大好き子」。環境コンサルタント業界を経て2011年10月に現職。「これからの環境問題」を来館者と一緒に考えていきたい。毎日、多くの方と対話できるのが幸せ。



**久保暢宏**

専門は表面化学（工学博士）。実験だいすき。「見てみる、触ってみる、やってみる」がモットー。私にとっての科学は知らない世界へのパスポート。いつか宇宙へ…と夢見つつ、南極観測隊参加、ちきゅう乗船を目指して修行中。



**熊谷香菜子**

少女時代の友達は大アリとカエル。大学1年で、ウミウシと運命の出会いを果たす。ウミウシを探ったり飼ったり解剖したりして修士号を取得。学生時代に、博物館ボランティアと小学校理科の助手を経験。小学生向け塾から2012年10月に未来館へ。博物館を、もっと身近で、だれもが学べる場所にしたい。未来館での友達はユニバナガニと乾眼中のクマムシ。



**コドブロス ディミトリス**

ギリシャから来ました。どうして日本に来たの？とよく聞かれます。小さいころから「日本に行きたい！」とずっと言っていました。日本の美学とわびさびに夢中になったからです。2年間半前に来日し、天文学を研究しました（天文学修士）。未来館では、科学は芸術とどうやって繋がっているかをずっと探求したいです。日本語、英語、ギリシャ語のいずれかで話しかけてください！



**小林直樹**

博士（医学）。免疫学を専攻後、ポスドク、特任助教を経て、現職。2011年は震災時の活動として、Webでお問い合わせに答える質問箱を担当。また、実験教室DNA鑑定を開発、実施。口ぐせは「忙しくないですよ！」。



**小宮山貴志**

専門は人間工学（修士）。玩具メーカー勤務を経て、2012年4月より現職。「やるんだったら、みんなで！おもしろく！」がモットー。特定の誰かではなく、誰もがおもしろいと感じることが重要。どんなトピックに対しても科学を武器にした、おもしろサプライズが起これないかと模索中。最近の関心は、みんなの夢と感動体験。



**佐尾賢太郎**

ナノバイオテクノロジーの研究で博士号を取得し、製薬企業での研究員を経て現職。人の喜ぶ顔を見るのが大好きで、「考える・感動する・楽しむ」がモットー。どうすればお客さんに伝わるかを考えて実践し、喜んでもらうことで自分も感動や楽しさを得ていくことが目標。

## 2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2013年度) ②



**坂巻 ため**

航空宇宙専攻。長野県松本で一人乗りヘリコプターの開発に8年携わり、2008年秋より未来館へ。現在一児の母。科学技術のありがたさと生命の神秘を噛み締めながら子育て中。未来館で科学技術にふれた来館者の発する思いがけない一言が仕事を行う原動力となっている。



**笹本 良子**

細かいことは気にしない！小柄でおっとり「地蔵系」キャラです。現在、子育てにも奮闘中！専門は原子核物理学。不安定核チーム（何でしょうこれ?!）を使った新しい原子核の研究手法で博士号（理学）を取得。研究所で実験していた経験をいかして、研究者と社会との間をつなげるような科学コミュニケーションを目指します。



**志水 正敏**

幼少時に野菜を育てたことをきっかけに、生物学の研究者になることを決意。しかし、派遣社員時に商品の良さを伝える仕事にかかわった際、「科学の面白さを伝えたい」と気づき、2013年10月より未来館へ。「わさもん（熊本弁で「あたらしもの好き」）」志水は、新たな出会いを求めて今日も放浪中！



**蔣 赫**

中国の青島の出身です。2001年に日本へ留学しに来ました。大学の専門は地震防災学で、大学院では情報通信学です。メーカーの研究開発を経て未来館へ。日本の科学コミュニケーションに対する考え方を全世界に発信し、各国の交流を深めていきたいと思っています。



**鈴木 啓子**

大学院在学中に科学コミュニケーションにはまり、博士号取得後2012年4月より現職。専門は神経科学。研究対象がヒヨコだったのが高じて、鳥全般が好き。科学と未来についてお客様とゆるく語り合っていきたい。



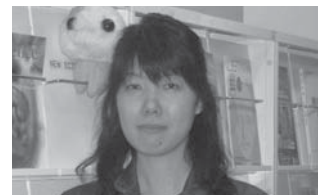
**鈴木 真一朗**

未踏ソフトウェア創造事業で培った企画力と実装力を武器に、恋愛支援システムをつかって修士号を取得。その後、商社での研究開発職を経て、2009年10月より現職。認知科学と情報工学の背景をいかし、自分にしかできない科学コミュニケーションを見いだそうと日々邁進しています！



**高橋 麻美**

学生時代の半分は海で過ごした、海と生物大好き海人（うみんちゅ）科学コミュニケーター！不思議なことに、大好きな海を通せば苦手だった物理も化学も地学にも興味が湧いてきた！？この経験を生かして、最近では海だけでなくいろいろな「科学の見かた」を模索中！大学では環境問題の一つ「海洋酸性化」と「サンゴ」をテーマにサンゴの飼育実験や無人島での調査を行い修士号取得。



**高橋 里英子**

理学博士。生物の生態、進化、発生の境界領域をテーマとした研究に従事。GCOE研究員などを得て現職。今ここにある世界のすべてには物語があり、そこには科学が深くかかわっている。その科学と呼ばれる集合は、いかに切り取れば「未来」と重ねられるのか。その手法を考えていきたい。



**高見 裕一**

物理学を専攻し微粒子の拡散シミュレーションで修士号を取得。システムエンジニアを経て2008年12月より未来館に勤務。子どものころに感じた科学の不思議さや、わかったときの楽しさを伝えるために日々フロアで奮闘中。目標は来館者との対話のなかで新たな発見を共有すること。



**竹下 陽子**

大学では、ダイオキシン類によるアザラシへの毒性評価を行ない修士号を取得。分析会社での技術職を経験後、「研究成果が国民に伝わる」ことの重要性を感じて科学コミュニケーター職に就く。



**谷 洋**

星と山と農漁村が好き元新聞記者。学生時代は陸路のアジア横断など旅を楽しみ、赤道近くで垂直に昇ってくるオリオンを見て「ああ、地球って丸いんだ」。地方紙記者時代は世界一硬い発酵食品とも言われる饅頭の伝統工場に惹かれ、「職人技と微生物の力が生み出した日本の宝だ」。2013年4月に未来館入り。中途半端ながらも幅広い興味と遊び心で、どんな面白いことができるかな。



**田端 萌子**

地球惑星科学で修士取得。隕石専門。最近では科学の分野間だけでなく、科学とアートなどさまざまな分野のインタラクションに夢中。それが科学コミュニケーションを面白くすると信じている。「日々勉強」、「時間厳守」、「南極進出」を目標にフロアで修行中。



**田村 真理子**

フラーレンに夢と希望を感じ有機化学を専攻。修士課程修了後、高校教師を経て2012年4月より現職。科学コミュニケーションを通じて、多くの方々と対話をするなかで日々自分自身も成長したい。文系・理系問わず興味をもったものは徹底的に調べ、何ごととも恐れずまですやってみる！歳をとっても、好奇心を忘れずに生きていきたい。



**千葉 磨玲**

アメリカ留学時代は植物ウイルスの研究、帰国後はがん細胞分裂期のRNAに関する研究を行い（理学博士）、2011年4月より現職。大学院時代から研究をしてきたSTS（科学・技術と社会）と中国科学技術館人材交流プログラムで養われたグローバルマインドセットをバックボーンに地球規模課題の解決へ取り組んでいく。



**寺田 雅美**

進化発生生物学を専攻。研究者を志していたが、「科学ジャーナリズム授業」をきっかけに進路変更。国立公園などインタープリター（環境教育）、某都内科学館インストラクターを経て、現職。世界とのつながりを実感し、日常の深みを見出すコミュニケーションがしたい。愛読書は「センス・オブ・ワンダー」。



**寺村 たから**

ドラえもんを読んで理科好きに。理学修士（化学）。食品メーカー、通信会社を経て未来館へ。展示フロアでの対話業務では「伝える」と「伝わる」ことの違いをひしひしと感じている。より広くより楽しく、科学が「伝わる」方法をマスターすることが、未来館在職中の目標。

## 2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2013年度) ③



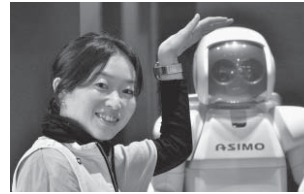
**戸坂明日香**

子どものころから絵を描いたり物を作ることが大好きで、美術の一本道を歩んできました。大学4年のとき、彫刻を作るためのモチーフ探しに科学博物館へ足を運んだのがきっかけで、科学に興味をもつようになりました。想像と創造を求めて2013年より未来館へ。



**鳥畑英子**

素粒子理論専攻。クォークの閉じ込め問題で博士(理学)取得。天文学者になろうとしたのに、宇宙の始まりを研究するためには素粒子理論をやらねばと大学時代に気づき、方向転換。大学講師として物理学概論などを講義し、新しい職場環境を求めて2013年4月から未来館へ。中3と小3の2児の母。来館される方との対話で「!」と「?」を毎日発見できるので楽しく活動中。



**長倉克枝**

妄想が好きです。バーチャルリアリティの世界で遊んでいた。人と機械の境界と、芸術に関心があります。新聞記者などを経て2012年10月から未来館へ。専門は獣医比較病理学ですが、新聞社科学技術部の記者時代に取材をしたロボットや機械、ネット、情報の面白さにはまり、まだ抜けさせていません。科学に関心のない人にも、面白がって読んでもらえる文章を書きたいです。



**西原 潔**

大学院と研究所で植物の染色体について研究し、2011年4月より未来館へ。言葉と写真による表現の方法を模索しつつ、科学について語り合うための土壌づくりを目指している。根が寂しがり屋なので、さまざまな人との出会いを大事にしていきたい。趣味は写真とドライブとワイン。



**野副 晋**

研究員として2つの研究所に勤務後、2011年10月から未来館に。2012年10月から、展示やイベントの企画製作など行う部署へ異動。メカ好き、のり物大好き。二児のパパ。



**野田裕美子**

得意科目は「理系科目以外」にもかかわらず、海好きが高じて理系へ進学。マリアナ海域深海底の磁化構造解析で修士号取得後、コンサルティングファームを経て、2009年より現職。文系理系関係なく科学に親しめる場をつくり、研究成果や研究者の魅力を伝えたい。最近の関心事は、教育/研究分野のブランディング。



**蓮沼一美**

教育学(修士)。科学コミュニケーションの能力を高めるため、2009年4月より未来館へ。新しい科学コミュニケーションのあり方を模索しながらも、日々の業務を楽しんでいる。



**長谷川麻子**

理系一家に育ったロシア文学専攻(現代詩)。未来館が開館した2001年夏まで一年間モスクワに暮らす。帰国直後、米国で同時多発テロが起きた。それから10年。外務省勤務やロシア語の通訳翻訳業を経て、2011年から科学コミュニケーターに。アプローチこそ違え、真理を見極めたいという思いは文系も同じです。Geo-Cosmosの美しさにパワーをもらいながら、日々新たな気持ちで学び、驚きや喜びをていねいに言葉にしていきたい。



**濱五十鈴**

事故や病気のために手足の不自由になった人の治療を目指して、再生医療の研究に6年間携わり、博士号(医学)を取得。2012年春より未来館へ。科学のお話を通して多くの人を笑顔にしたいと思い、科学コミュニケーターになりました。目指せ! 人類70億、総笑顔!!



**早川知範**

専門は天文学。アメリカ、ニューヨーク州にて博物館学を学び、プラネタリウム解説員を経て2010年4月より現職。英会話講師の経歴も持ち、なによりも人と人とのコミュニケーションを大切に考える。最近の興味はアジア、特に韓国の科学館。



**福田大展**

クローン人間?いいえ。「クローン病」。特定疾患のクローン病を患う難病科学コミュニケーター。専門は物性物理。大学では太陽電池用のシリコン結晶を作成する研究に携わり、修士(物理学)を取得。新聞記者として4年半、地震防災や浜原原発などを取材した後、2012年10月より現職。「事件は研究室じゃなく、現場で起きてるんだ!」がモットー。エネルギー問題や放射線、地震など、有事の科学コミュニケーションに興味があります。



**藤井満美子**

専門は分子生命科学。ガン細胞のタンパク質の研究にて修士号取得。卒業後は、「特定の研究というクローズな社会ではなく、さまざまな社会で働く人とパイプがある仕事がしたい」と思い、畑でいではあるがシステムエンジニア(SE)として就職。科学を「伝える」だけでなく、「感動を共有」できるようにすることを目標に奮闘中。多くの方々の「おもしろい!」をパワーに日々成長していきたいと思えます!



**堀川晃菜**

微生物に秘められた可能性に胸ときめかせ、大腸菌の研究で修士取得。農業・種苗メーカーに就職し、農業という一つの科学技術の産物に対し、多くの方がネガティブなイメージを抱いていることにショックを受ける。これを機に、科学と人々の架け橋になりたいと思い、未来館の科学コミュニケーターに。みなさんと一緒に未来の在り方を描ける科学コミュニケーターを目指します。(そこに微生物を絡めることが密かな夢)



**本田隆行**

大阪枚方が育てた、自称「おしゃべりな理系」。宇宙の神秘に魅せられて、大学院では惑星科学を専攻(修士)。卒業後は地元市の役所で勤務するが、好きな科学が忘れられず未来館へ。科学・人・まちをつなげて日本をおもしろくしたい!



**本田ともみ**

「環境問題とよりよい福祉は両立できるの?」そんな疑問から一番ミクロな実践として「園芸療法」を研究してきた7年間。人がワクワクする場、変化する瞬間を見るのが生きがい。チェロと宮沢賢治をこよなく愛する。人と人が生み出す化学変化を、地球の未来にかける科学コミュニケーターを目指します!



**益原愛子**

専門は農学。縁あってメキシコへ留学、現地の大学院(農業森林学修士)に進み、明るくおらかなラテン気質にもまれながら無事帰国。人でも多くの日本に住む人たちと、そして日本から遠く離れたさまざまな国の人と未来館をつなげていきたい。科学を楽しく感じて、世界視野での地球環境を身近なところから考えていくことをモットーとする。

## 2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2013年度) ④



**松井 彩**

「人は一生のうち「満月の瞬間」を何度見ることができるんだろう…？」歩きながら空を見上げ、もの思いにふける。哲学者になりたかった科学コミュニケーター。2013年4月から未来館で働いています。大学の研究成果からビジネスをつくる「技術移転」という仕事をしていましたが科学コミュニケーションの世界に飛び込んできました。科学とアートと哲学が好き！



**松浦麻子**

大学院のころ、科学コミュニケーションに興味をもつ。研究者が科学コミュニケーターになりたかったが、「一度、社会に出たほうがいい」と恩師に言われ、就職。原子力安全に関わる業務に従事。東日本大震災を機に、科学技術の裏と表の両方を伝えられる人になりたいと、満を持して2013年10月から未来館へ。



**松山桃世**

研究生活10年。専門は分子生物学（理学博士）。暗記嫌い、謎解き好き。ワクワクする仮定をたてて実験、得られた結果からモデルを立ててさらに検証—日常生活でも大活躍な科学的思考法のちょっとしたコツ。どんなしかならみんなでも体得できるのか、悪戦苦闘中。



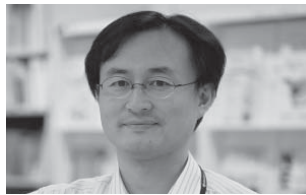
**村嶋 恵**

専門は栄養学（博士）。食べ物がからだをつくっている！ことに感動を覚え、からだと栄養、さらに心と栄養のつながりを研究。日常すぎて科学っぽくない栄養学を、ゆるく科学コミュニケーションしていきたい。



**山崎 功**

高校卒業後、いろんな人や文化に接したいと思い米国に留学。ミネソタ大学大学院で自然環境教育を専攻。その後10年間ミネソタ科学博物館で勤務。2011年1月から未来館で勤務。外国のお客にも楽しんでもらえる環境を作って行きたい。



**池辺 靖**

科学コミュニケーション専門主任  
理学博士。宇宙物理の分野で、理化学研究所、ドイツマックスプランク宇宙空間物理研究所、アメリカNASA/GSFCにおいて9年半の研究生活を経て、2004年より未来館勤務。



**小沢 淳**

科学コミュニケーション専門主任  
科学技術系シンクタンクを経て現職。専門はコンピュータグラフィック。前職では、情報技術を使った近未来社会の予測や、科学技術と文化芸術の融合領域における政策研究などを行った。未来館では情報科学技術分野の展示企画を担当。



**松岡 均**

科学コミュニケーション専門主任  
理学博士。専門は宇宙物理学。大学院修了後、国内外での研究生活を経て、2004年に未来館へ。その後、JAXA宇宙教育センターで学校教育の支援活動に従事し、2012年に再び未来館に戻り現職に就く。さまざまな経験を活かし、社会と研究者の橋渡しをしたいと思っている。



**森田由子**

科学コミュニケーション専門主任  
博士（理学）。専門は生物学（動物学）。大学と製薬会社で、基礎科学と応用科学のそれぞれの立場を経験したことが、現在のモノ・コトの考え方に大きな影響を与えた…と思っている。2012年より現職。科学コミュニケーションマインドをより多くの人にもつようになるためのしぐみを、考え続けている。